

三門と呼ばれる正門は、東光寺が建立された 1691 年から 121 年後に建造された。その名の由来は三解脱門、－貧空・無相・無願－という仏教の教えで、全ての禅寺の本質である。三門の真ん中に、やや盛り上がった石の線があり、聖地への入り口を示す境界線を示している。中央門の左右には、建造後に刻まれた寺院と門への献呈がある。門の周りには、過去の巡礼者 の名前を書いた千社札が見られる。門の両側に階段があり、2 階に上がることができる。そこには 18 羅鑑像が並べられている。門の裏側には、土地に対して寛大であることに関するインドの伝説が述べられており、寺院を建設する土地を提供した毛利家の寛容さを指しているといわれている。